新修御神樂歌

特260
439

始

特260
439

修新 御神樂歌

あしきをはらうてたすけたまへ
てんりわうのみこと
ちよとはなしかみのいふこと
きいてくれあしきのことは
いはんでなこのよのぢと

てんとをかたどりてふうふを
こしらへきたるでなこれは
このよのはじめだし
あしきをはらうてたすけ
せきこむいちれつすまして
かんろだい

一

一ツ ふ月こえのきづけは
やれめづらしい
二つ につこりさづけもろたら
やれたのもしや
三つ さんざいこころをさだめ

四ッ よのなか
五ッ りをふく
六ッ むしやうまでけまはす
七ッ なるかにつくりとるなら
八ッ やまとはほうねんや
九ッ ここまでついてこい

十ド とりめがさだまりた

二

とんくとんと三月をどりはじめ
やれおもしろい
二ッ ふしぎなふしんかゝれば
やれまぎさはしや

三ッ みよつく
四ッ よなほり
五ッ いづれもつきくるならば
六ッ むほんのねをきらう
七ッ なんぢふをすくひあぐれば
八ッ やまひのねをきらう

九ッ こころをさだめるようなら
十デ ところのをさまりや

三

一ッ ひとがなまごといはうとも
かみのみてゐるきをしづめ
二ッ ふたりのこころををさめるよ

なふかのこともあらはれる

三ッ みなみてゐるよそばなもの
かみのすることなすことを

四ッ よるひるどんちやんつとめする
そばもやのまーうたてのろ

五ッ いつもたすけのせくからに

はや〜やうきになりてこい

六ッ むらのたはやくまたすけたい
なれどこころのわからいで

七ッ なふかよろづのたすけあひ
むねのうちより志あんせよ

八ッ やまひのすつきりねはぬける

いろはだんくいさみくる
九ッ ここはいのよのごくらくや
わしもはやくまゐりたい
十ド このたびむねのうち
すみきりましたのありがたい

四

一ッ ひとのこころといふものは
うたがひぶかいものなるぞ
二ッ ふしぎなたすけをするからふ
いかなることもみさだめる
三ッ みなせかいのむねのうち
かがみのごとくまうつるなり

四ッ　ようこそつとめよついてきた
これがたすけのもとだてや
五ッ　いつもかぐらやてをどりや
すゑではめづらしたすけする
六ッ　むーやうやたらよねのひでる
うけとるすぢもせんすぢや

七ッ　なんぼ志んぐ志たとても
こゝろえちがのひはならんぞえ
八ッ　やつぱり志んぐせやならん
志ゝろえちがひはでなほしや
九ッ　こゝまで志んぐ志てからは
ひとつのかうもみやならぬ

十ド　このたびみえましたあふぎのうかがひこれふしぎ

五

一ツ　ひとことはなしはひのきしんよほひばかりをかけておく

二ツ　ふのいこころがあるなればたれもとめるでないほどに

三ツ　みなせかいのこころにはでんぢのいらぬものはない

四ツ　よきぢがあらばいれつにたれもほいであらうがな

五ツ　いづれのかたもおなじこと

わたもあのぢをもとめたい

六ッ むりはどうせといはんでな
そこはめいめいのむねしだい

七ッ なんでもでんぢのはたいから
あたまはなるほどいるとても

八ッ やたきはかみのでんぢやで

まいたるたねはみなはえる

九ッ ここはこのよのでんぢなら
わしも志つかりたねをまこ

十ド このたびいちれつに
ようこそたねをまきまきた
たねをまいたるそのかたは

こえをおかずよつくりとり

六

一ッ ひろいせかいやくふなかに
いしたちきもないかいな

二ッ ふしぎなふしんをするなれど
たれよたのみはかけんでな

三ッ みなだんぐとせかいからよりきたことならでけてくる

四ッ よくのこころをうちわすれとくとときろをさだめかけ

五ッ いつまでみあはせねたるともうちからするのやないほどに

六ッ むしやうやたらよせきこむな
むねのうちより志あんせよ
七ッ なるかこころがすんだなら
はや〳〵ふしんふとりかゝれ
八ッ やまのなかへといりこんで
いしもたちきもみておいた

九ッ このきき〻うかあのいしと
おもへどかみのむねしだい
十ド このたびいちれつに
すみきりましたのむねのうち

七

一ッ ひろいせかいをうちまはり

一せん二せんでたすけゆく

二ッ ふじいうなきやうよをてやうう
かみのこころにもたれつけ

三ッ みればせかいのこころには
よくがまじりてあるほどに

四ッ よくがあるならやめてくれ

五ッ かみのうけとりでけんから
いづれのかたもおなじこと
志あんさだめてついてきい

六ッ むりにでよといふでない
こころさだめのつくまでは

七ッ なかなかこのたびいちれつに

ちつかりしあんをせよやならん

八ッ やまのなかでもあちこちと
てんりわうのつとめする

九ッ ここでつとめをしてゐれど
むねのわかりたものはない

とてもかみなをよびだせば

はやくこもとへたづねでよ

八

一ッ ひとのこころといふものは
ちよとふわのらんものなるぞ

二ッ ふしぎなたすけをしてゐれど
あらはれでるのがいまはじめ

三ッ みづのなかなるこのどろを
はやくいだしてもらひたい
四ッ よくにきりないどろみづや
たろすみきれごくらくや
五ッ いつ〳〵までもこのことは
はな〳〵のたねなるほどに

六ッ むごいことばをだしたるも
はやくたすけをいそぐから
七ッ なんぎするのもこころから
わがみうらみであるほどに
八ッ やまひはつらいものなれど
もとをたりたるものはない

九ッ このたびまではいちれつに
やまひのもとはしれなんだ
十ド このたびあらはれた
やまひのもとはおろから

九

一ッ ひのもとおやしきの
かみのやかたのぢばさだめ
二ッ ふうふそろうてひのきしん
これがだいいちものだねや
三ッ みればせかいがだんだんと
もつこうてひのきしん
四ッ よくをわすれてひのきしん

これがだいいちこえとなる

五ツ いつまでもつちもちや

まだあるならばわしもゆこ

六ツ むりまとめるやないほどに

こころあるならたれなりと

七ツ なまかめづらしつちもちや

これがきしんとなるならば

八ツ やおきのつちをほりとりて

ところかへるばかりやで

九ツ このたびまでは いちれつに

むねのわからんぎんねんな

十ド ことしはこえおかず

ぶぶんものをつくりとり
やれたのもしやありがたや

十

一ッ いちにだいくのうかゞひに
なにかのこともまかせおく
二ッ ふしぎなふしんをするならば
うかゞひたてまいひつけよ
三ッ みなせかいからだんぐと
きたるだいくまにはひかけ
四ッ よきとうりやうがあるならば
はやくこもとへよせておけ
五ッ いづれとうりやうよにんいる

はやくうかがひたてまみよ

六ッ むりにこいとはいはんでな
いづれだんぐ つきくるで

七ッ なふかめづらしこのふしん
ちかけたことならきりはない

八ッ やまのなかへとゆくならば

あらきとうりやうつれてゆけ

九ッ これはこざいくとうりやうや
たてまへとうりやうこれのんな

十ド このたびいちれつま
だいくのふんもそろひきた

新修御神樂歌終

393
166

明治三十一年十月三十一日　印刷
仝　十一月一日　發行
昭和十四年四月一日　新修發行

奈良縣丹波市町三島
編纂兼發行者　天理教教會本部
右代表者　山澤爲次

奈良縣丹波市町川原城
印刷所　天理教教廳印刷所
右代表者　紺谷金彦

終